



「籠の果物I」 坂田 瑞来

よいことのために 手を取りあおう

UNITE FOR GOOD

2025-2026年度国際ロータリーテーマ

事務局	四国中央市金生町下分789-1	四国中央商工会議所内	
	http://www.iyomishima-rc.jp	TEL(0896) 58-3530	
	E-mail:iyomis@iyomishima-rc.jp	FAX(0896) 58-6294	
例会	金曜日 12:10~13:10		
■会長	高岡 淳	■幹事	川崎直人
		■会報委員長	中野 航

卓話（外部）

阪神・淡路大震災を経験して

(有)よねざわ 代表取締役
前田 秀和

1995年1月17日の早朝5時46分に発生した阪神・淡路大震災から31年が経ちました。それまで神戸では「地震は来ない」が合言葉だったにもかかわらず震度7の揺れが突然やってきて日常がいかに儚いかを思い知りました。その震災で大切な両親、かけがえのない友人を亡くしました。まだ布団で寝ていた高校2年生(17歳)の私は突然の揺れで目が覚め、一瞬何が起こったのか分からないほどの揺れに怖くなり布団に潜り込みました。揺れが止み、静寂の中起き隣の部屋に寝ているはずの両親と弟の所に行こうと扉を開けると、小学1年生(7歳)の弟が抱き着いてきました。一緒に階段を降りる途中、埋まっているのが分かり階段上の小窓から外に出て初めて1階が無くなり2階だけが残っているのが分かりました。両親を探すも見つからず、もしかして1階に埋まっているのではと近所の方々が掘り起こして、昼前頃に冷たくなった両親が発見されました。

今まで何気なく過ごしていた当たり前の日常が一瞬で失われました。その後姉(19歳)と共に3人で避難所、仮設住宅に移り住みました。何とか弟を一人前の大人にしなければという想いで、父親母親役になり必死に前を向こうと生きていたのを覚えています。この31年を振り返った時「感謝」という言葉に尽きます。

震災という人生のどん底から這い上がり、今私がこのように幸せに暮らせていること、思い返せば多くの人の支えがあったからこそだと改めて思います。

多くの方が優しい言葉と共に、温かい手を差し伸べてくれました。私はこの感謝を忘れることなく、今後はこの様に自分が体験した事を話すことで、少しでも恩返しが出来ればと思います。



第3490回

例会記録

令和8年1月16日

開会 高岡 淳 会長

来賓紹介

(有)よねざわ 代表取締役 前田秀和様

出席報告

出席会員(33名中)	26名
名誉会員	1名
出席率	81.25%

会長の時間

幹事報告

・R文庫運営委員会～文庫通信のご案内

例会行事

卓話(外部)

前田秀和 様

ニコニコ紹介

高岡 淳会長～

今日の例会アワーの講師の前田秀和氏は昨年のインターアクトクラブ年次大会の防災の講師の方でした。31年前の1/17の朝発生した阪神淡路大震災で御両親を亡くされました。今日はその体験談を聞かせていただければと思います。

よろしくお祈りします。

金崎敏明君～

年末30日に待望の2人目の孫(男の子) みお 湊が誕生しました。

手島 純君～

去る12月20日開催された異業種交流コンペで準優勝させて頂きました。ハンデもいっぱいだったので恐縮次第です。

ヒーハーお二人のカリスマ性もあり、大盛況のコンペでした。お二人のツメのあかを少し分けて下さい。

1月30日プログラム予定

休 会

2月6日プログラム予定

I M 報 告